



ポレポレ

スワヒリ語で「ゆっくり行こう」という意味

令和8年（2026年）9月16日

第4号

札幌市立太平中学校 まなびの教室

ナナカマドの実が赤くなり、深まりゆく秋を感じる頃となりました。各中学校では、学校祭や合唱祭（学校によって実施の有無、名称や内容が異なります）の準備が始まっていると思います。

友達とのものづくりや歌練習を楽しんでいる人が多いですが、行事に向けた取組を苦手に思う人もいます。通常と違う日程、生徒中心の活動、テンションが高くなる人などに疲れてしまう、といったことがあるようです。

他の人と力を合わせて作品や合唱を作り上げる経験は、社会性の土台になります。自分のできることを探して参加する、頑張っている人に協力する、他の人と喜びや悔しさを共有するなど、行事には人を成長させるきっかけがいくつもあります。いやなこともあります、それも人を強くします。生徒の皆さんには、ぜひ行事活動に積極的に参加してほしいです。

3年生は、学力テストAが終わり、進学に向けた取組が本格化しています。受験のためだけでなく高校生活を楽しめるように、残りの中学校生活で学習や人との関わり方を意識してください。応援しています。



ホームページで教室便りが見られます

太平中学校ホームページのサイドバー（スマホなら上部のメニュー）に、「まなびの教室」バナーを設けました。教室便りや教室紹介リーフレットなどを御覧ください。



前期末 保護者懇談 9/28～10/16

事前の希望日調査への御協力、ありがとうございます。保護者の方々におかれましてはお忙しい中とは思いますが、御参加をよろしくお願いいたします。前期の頑張り確認と後期の作戦を話し合いたいと思います。

お休みの場合は、早めにお電話をお願いいたします。また、通級日の変更・追加は、遠慮なくお伝えください。

まなびの教室 772-7969

太平中学校 772-7961

どうしたらいいかな～ ④

「学校を休みたい」



通級利用生徒で、登校渋りがある生徒は少なくありません。状態や背景は一人一人異なり、こうしたら改善するというマニュアルはなく、対応に苦慮することが多いです。

進学意識が高まることで中3の2学期から学校に行くようになった生徒、少し話せる友達ができて短時間の別室登校から学級で一日授業を受けるようになった生徒、対人面を理由に連続欠席が多かったのに月曜日は通級（他校）にだけ行って帰宅するリズムにしたら残りの日はしっかり登校できるようになった生徒など、その子なりの対応により登校や高校進学につながった例を多く見ました。

しかし、子どもの状況に応じてタイミングを見計らって背中を押すことが大事だとわかっていても、本人のストレス等を考えると二の足を踏むこともあります。

先日、神田外語大学客員教授 嶋崎政男先生の「不登校の子どもの育ちを支える対応」に関する講義を聴き、子どもたちへの関わり方のヒントを得ましたので紹介します。不登校の要因・背景を下記の「6つの力」から考えると理解しやすいというものでした。

① 家庭が子どもを押し出す力

登校を促す声かけ、学校と保護者の良好な関係 等

② 学校が子どもを惹きつける力

楽しい授業、良好な人間関係、自己存在の享受 等

③ 学校が子どもを阻む力

いじめ被害、教師の不適切指導、失敗への予期不安 等

④ 家庭が子どもを引き寄せる力

ヤングケアラー、保護者の強制、「家庭の城」等

⑤ 本人の特性等から生じる力

起立性調節障害、知覚・対人過敏、過敏性腸症候群 等

⑥ 教育支援施設等に向かう力

教育支援センター、フリースクール、学びの多様な学校 等

登校渋りの原因探してなく、子どもの今後の環境づくりをどう行えばよいかを検討するきっかけにできそうです。また、学校で自己存在の享受（ここにいるだけで価値がある）ができることは、安心感、さらには精神的な強さやしなやかさにつながっていくものと考えます。